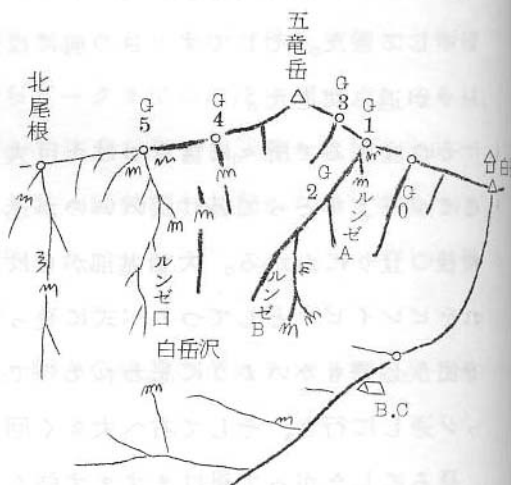


4. 五竜岳東面

昭和44年5月 勝 野 優

五竜岳東面合宿は、ベースキャンプを大遠見に設営し、上級部員は五竜岳東面の雪稜を対象に、新入部員は五竜岳と唐松岳の稜線を対象に行なった。

東面は思ったよりブッシュがひどく、そのなかで比較的ブッシュの少ない北尾根とG5尾根を選びトレースした。五竜・唐松の稜線は、ほとんど夏道が出ていて新入部員でも別に問題はなかった。



北 尾 根

勝 野 ・ 越 智

5時ベースキャンプを出発、大遠見山からカクネ里出合に向って派生している尾根の右斜面を下り始める。途中傾斜がきつくなってきたので、右側のルンゼに入り、そのルンゼを白岳沢まで下る。下った所は北尾根の末端より50m程下流であった。北尾根の末端は壁になっており、その線の右側のルンゼから取り付き、ブッシュを漕いで雪稜に出る。尾根はやせ細り傾斜もきつい、尾根の右側は全体に切れ落ちているので主に左側の斜面を登る。10時過ぎ、やっと中間の壁に着く、壁の右側の急斜面を登り壁の上に出るが、尾根は依然急なナイフエッジとなって続いている。雪の状態がわるいため終始確保しながら進む、そのため非常に時間がかかり、G7側に大きな枝尾根を派生しているピークに達したときは1時を過ぎていた。そこから次第に傾斜が緩くなり幅も広くなる。稜線が近いことを感じながらハイマツと雪のミックスした斜面を登りきると、大きなザックを背負った縦走者の姿が目に入った。

5:00

B. C 出発

白岳沢底 6:10

取り付き 6 : 45

中間の壁 10 : 20

G7側に枝尾根を生じているピーク13 : 20稜線14 : 30

G5尾根

四方・川戸・増瀬・宮本・藤原

ルンゼD側から取り付き、ブッシュを漕いで稜線に出る主稜線直下の壁の下にあるザッテルまで4つの小岩峰を乗越しそれをつなぐブッシュにおおわれた尾根をたどる。最後の壁は正面の浅いルンゼを登る。

4 : 50 B. C 出発 5 : 10 下降点 5 : 30 G5末端

7 : 20 中間部雪田 7 : 45 雪田終了

8 : 40 岩壁下部ザッテル 10 : 30 G5の頭

鹿島槍往復

四方・安沢

遠見尾根のB.Cを6時に出発する。広い尾根をトレールにしたがって進む白岳の中腹をトラバースし五竜小屋のあるコルに達する。(6:55)小屋より夏道をたどってからむようにして雪面を登りちょっとした岩場をすぎると小さな雪稜となり五竜の頂上に出た(7:43)頂上より稜線には雪が全くなく夏道が完全に出ている。頂上より大きく下り黒部側につけられた夏道を行く、G5の頭着(8:14)しばらく休んだ後、鹿島槍めざして進む、G6の頭(8:48)北尾根の頭(9:02)小さな登り下りをくり返して行くとキレット小屋に出た(10:13)。昼食後10時30分出発、小屋のすぐ横から急な登りとなり、すぐにキレットである。信州側にまわっている夏道はバンド状になってキレットの底へつづいているが、降り口に雪のブロックがのっているし、直っすぐ下れそうなのでクライミングダウンらしい。底からは赤い鉄のハシゴがあり、再度黒部側に出て登る。鹿島槍への登りの途中から北壁がよく見える。鹿島槍北峰着12:00、交信の後冬山で残した食糧の埋っているあたりをゾンデする。12時40分五竜岳へ向って出発、

キレット小屋着(13:40)北尾根の頭(15:30)G5の頭(16:25)。来るときはすぐであった、五竜への登りが長く感じられる、五竜岳着(17:05)。17時15分出発BCへ向って走るようにして下る。BC着18時10分。

5 笠ヶ岳東面

昭和45年5月

安 沢 寛

45年度の5月の連休合宿の地として笠ヶ岳を選び、穴毛谷、一ノ沢出合の堰提下にベース、キャンプを置き東面の各ルートにおいて合宿活動を行った。

5月の連休といえどもまだ訪れる人の少ない笠ヶ岳において静かな山行を味わうとともに、天候にめぐまれて予定していたルートのをほとんどを完了することができた。以下はそれぞれについての記録である。

〔笠ヶ岳東面概念図〕

